

第2回例会 代表質問から



会派清新
柴田 文男

地方創生について

質問 地方創生のために最も優先すべき行政課題は何か伺う。

答弁 人口減少に歯止めをかけるため、出生率の向上に努める必要があります。そのために、雇用の場の確保による生産年齢人口の定着や、安心して結婚・出産・子育てができる環境づくりが不可欠です。

本市の特性をよく踏まえて対応したいと考えています。

質問 地方版総合戦略と財政健全化計画をあわせて策定するとのことだが、どのような視点で財政健全化計画を策定するのか伺う。

答弁 平成26年度の一般会計では、4億9千万円を基金から繰り入れせざるを得ず、財政の健全化は喫緊の課題となっています。

地方創生のための有効な施策は優先的に実施したいと考えますが、

そのためには健全な財政を維持する必要がある、二つの課題を車の両輪として、持続可能な市政運営の基盤を築きたいと考えています。

力強い産業と活力あるまちづくりについて

質問 総花的な印象を受ける。何に重点を置き、雇用などを確保するのか伺う。

答弁 雇用の創出と仕事づくりを大きな目標として、地元企業の育成と起業化を狙った「産業創出促進助成金制度」を大規模な予算で創設し、産業の育成支援の強化を図っています。また、農業を含む地域産業の育成に重点を置き、雇用の創出に努めていきます。

日本で最も美しい村連合への支援について

質問 江部乙地区の連合への加盟に大きな期待を持っている。地域の皆さんの理解と不断の努力が必要と考えるが、市としてどのような支援を考えているのか伺う。

答弁 今年2月に「日本で最も美しい村」江部乙協議会が加盟を申し、5月に現地審査が行われ、

「日本一の菜の花畑」や「防風林に囲まれたりんご畑」が高い評価を受けました。結果は8月末に内示があり、10月の臨時総会で正式に承認される見込みです。

加盟の承認が前提ですが、活動に対し、必要に応じて予算措置などの幅広い支援を行っていきます。

中心市街地の活性化について

質問 「栄町3・3地区再開発事業」の進展により、地区周辺の再開発の必要性が問われる。周辺商店街のあり方や再開発の今後について伺う。

答弁 今回の事業着手を契機に、大型空き店舗である旧名店ビルをはじめ、空き地、空き店舗を中心とした民間開発への波及に大きな期待を持っています。また、空き店舗などの改修費用の一部を補助する「店舗リノベーション支援事業」などを活用し、新たな中心市街地の形成に向けて引き続き支援を行っていきます。

スカイスポーツの振興について

質問 今まで無かった死亡事故は残念でならない。観光資源として

高い評価を得ているグライダーの体験搭乗は、今が最も重要な時期。しっかりと市への対応を求める。

答弁 現在、滝川スカイスポーツ振興協会では、広く運航全般にわたる安全総点検を行い、外部有識者会議を立ち上げ、対応策の妥当性について検討を行っています。市としても、外部有識者の推薦を行うとともに、協会と協議を重ね、早期再開に向けた対応を進めています。

再開時には市長みずから搭乗し、飛行の安全性をPRしたいと考えています。

プラチナタウンについて

質問 市長の思い入れがあるはず。具体的な記述がないが、なぜか。

答弁 2期目の市政運営に当たり、子ども、女性、教育に対する重点支援とともに、高齢者の皆さんが生き生きと輝き、暮らせる「プラチナタウン」が、まちづくりの一つのイメージになっています。

具体的な構想はこれからですが、都市圏から健康的な60歳代の移住を受け入れるなど、さまざまな視点で進めたいと思っています。